

スプレー缶、捨て方が面倒だし危なそう…

これで完璧！

4step

簡単！安全！
たったこれだけ

step1

エアゾール缶の中身を空にする

- ・製品を使いきって、缶をカラにする
- ・使いきれない場合は、中身を出して缶をカラにする

注意 1) 中身を出す場合は、火気のない風通しの良い屋外で行ってください。近くの火気や静電気で引火することがあり危険です。

注意 2) どうしても缶の中身を空にすることができない時は、商品に記載されているお客様相談室や販売元（メーカー）にお尋ねください。



step2

中身が空になったか確認する

- ・缶を振って音を聞いてみる
- ・中身が残っていると『シャカシャカ』
『チャプチャプ』などの音がする

カラだと思っても・・・使用条件により、中身が少量残ることがある



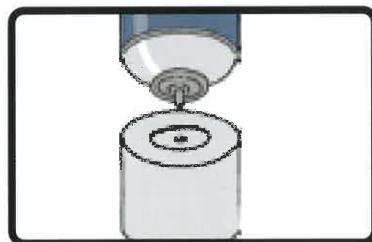
step3

ガス抜きキャップを使って、ガスを抜く (機能が搭載された製品のみ)

- ・製品に書いてある“ガス抜きキャップの使い方”をよく読む
- ・火気のない風通しの良い屋外で作業する

屋内で中身を出すと、近くの火気や静電気で引火することがあり危険

- ・ティッシュや新聞紙などに吹き付けることで、周囲への飛散に配慮する



step4

ガス抜き後、ごみに出す

- ・キャップ(ふた)や噴射のためのボタン等、
プラスチックを分別する

容易に取り外せない場合は、無理して外さない

- ・ごみの出し方は、地域によって異なる

不燃ごみ・資源ごみ（缶類・金属類）など、分別の仕方を確認し、ルールを守りましょう。



スプレー缶の正しい廃棄で火災、事故0に

エアゾール缶は、中身を完全に使いきってあれば、一般の金属容器と同様、安全に廃棄することができ、またリサイクルも可能です。
正しく廃棄することで、スプレー缶（エアゾール缶）による、ごみ収集車の火災事故や、処理場での火災を防止できます。

スプレー缶（エアゾール缶）の
捨て方を動画で解説！



ガス抜きキャップの使い方

スプレー缶には【ガス抜きキャップ】が装着されています。
中身のガスを出し切るために、ガス抜きキャップを使いましょう！

商品によっては、[ガス抜きキャップ（中身排出機構）] [ガス抜きキャップ（残ガス排出用）] [ガス抜きキャップ（ボタン）] 等の表記を行うものがあります。
但し、一部のスプレー缶（エアゾール缶）商品には、ガス抜きキャップは付いていません。
【例】
内容量100g以下のエアゾール製品又は、炭酸ガス・窒素ガス等の不燃性ガス使用商品（商品表示をご確認ください）

中身を使い切る

人などにかからないように、
風通しが良い火気のない屋外で、
風下に向けて使用してください

新聞紙などに吹き付けるなどして、
周囲への飛散にご配慮ください

※ガス抜きキャップについてのお問い合わせは、商品に記載の“お客さま相談室”や“販売元”にお尋ねください。

※ガス抜きキャップの形状、使用方法は、商品によって異なります。商品に記載された使用説明を必ずご覧ください。



手順はわかったけど、もっと
分かりやすく、動画を見
ながらできればいいな…



形が特殊なものは、どう
やってガス抜きすればいい
んだろう？



ガス抜きキャップ使用の注意事項

- 中身を完全に使い切ってから火気のない風通しの良い戸外で行う。
- 中身が残っている製品で実施すると、可燃性ガスが大量に出て危険。
- 屋内で実施すると、残っているガスが部屋にたまることのある危険。

ガス抜きで気を付けることは？

缶に直接穴を開けてガスを抜くことは絶対にしないでください！

- ・エアゾール製品は内部が高圧状態にあるため、容器に穴を開けると中身が遠くまで噴射され、危険です。
- ・エアゾール製品に使われている可燃性のガス(LPG、DMEなど)は空気より重いので、換気扇を回しても吸い込まれずに下にたまってしまいます。

キッチンシンク中でのガス抜きキャップの使用は“絶対”に行わないでください！

- ・室内やキッチンでは思わぬ火種で引火事故を引き起こす可能性があるため、ガス抜きは風通しの良い屋外で行うようにしましょう。

右の写真はシンク内にガス(LPG)が滞留する様子をドライアイスで再現したイメージです。



使い切ったエアゾール缶とプラスチックは各市区町村の指示に従い、分別して、ごみにだしてください。
エアゾール缶は、中身を完全に使いきってあれば、一般の金属容器と同様、安全に廃棄することができ、またリサイクルも可能です。

※『ガス抜き済み』と表示すると安全です。

廃棄時に穴を開ける指示がある場合は、ガス抜きを完了した後に行ってください。



その他
よくあるご質問